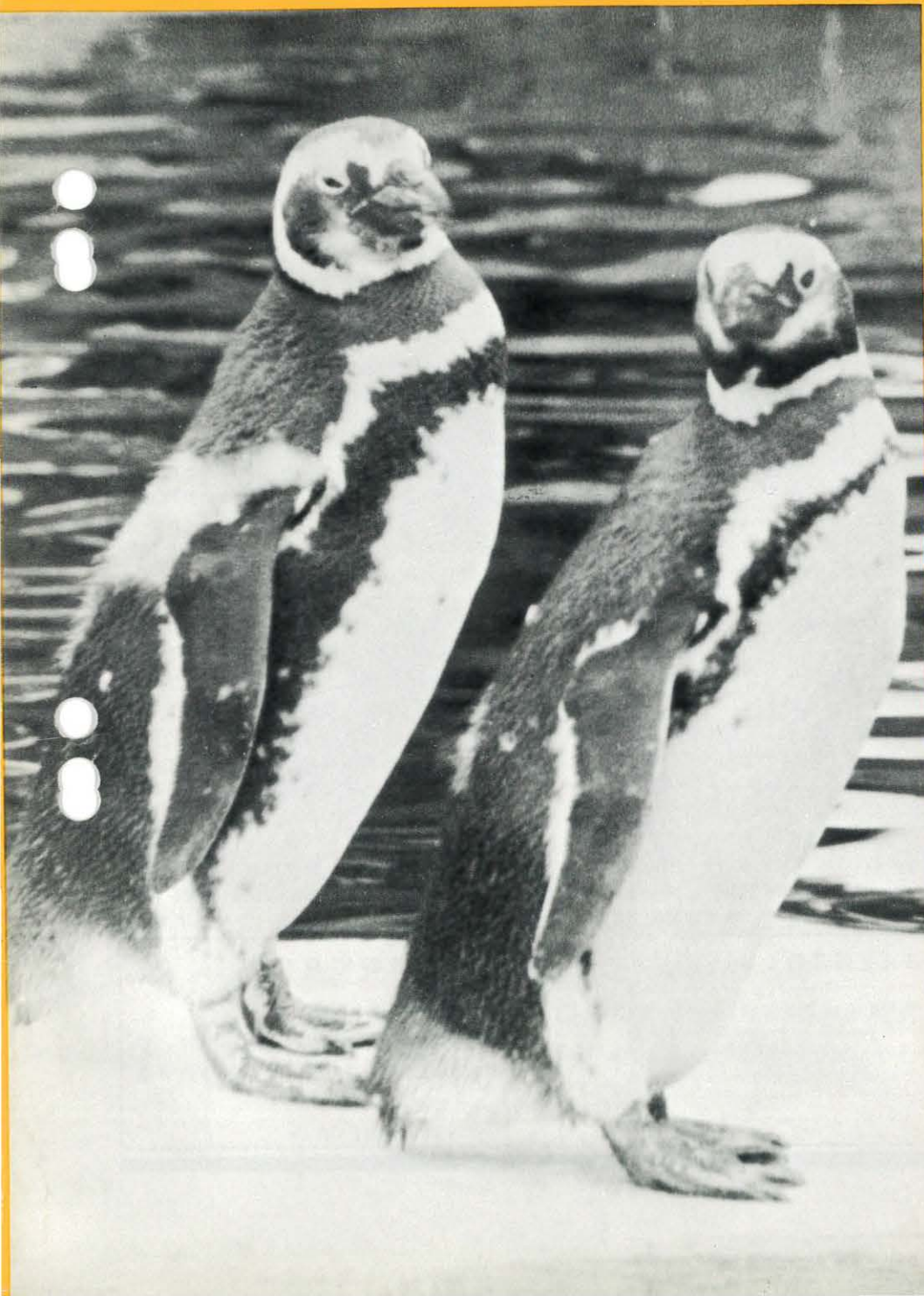


なきごえ



1976

2

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

米谷佳晃

東京に現在住んでいる私にとって、地方の動物園、あるいは関連施設を訪れる機会は決して多くない。これではいけない、と思いながらも、いつしか当り前になりつつあるのは否定できない気がする。かつては、西へ東へと珍しい動物達を求めて、動物園荒し(?)をやったものである。どうして、身近の動物園では飽き足らず、ゼニと時間をかけてまで一と常人なら思われるかも知れませんが、ところがドッコイ地方と言っても、軽視はできないのですよ。なぜならば、本当に思いもかけない動物とお目にかかれることがあるからだ。そして、地方になればなる程、その方面の情報が入り難いことも事実である。

以前、私の知人・K氏の話であるが、こんなことがあった。浜松の小さな動物園での出来事である。そこに、フンボルト・ペンギンのヒナという触れ込みで一羽の小さなペンギンが飼われていた。実はこのペンギン、なあとコビト・ペンギンだったので。我が目を疑ったK氏、写真を元に調べた結果、ホンモノと確認。早速、この小さなペンギンは、バイソン(アメリカ野牛)と引き替えられることになって、上野動物園へお越し入れ。誰しも耳を疑う、この話。果して、上野にとっては倍損したのか、得したか定かたでなければ、まっことユカイな話ではないか!

今でこそ、遊園地に併設された動物園として充実してきた宝塚。かなり昔の話で申し訳ないけれど、ここにラッコが飼われていた。このラッコを一目見んものと、歌劇ソッチノケで通ったことがある。さほどカワウソと変りのない姿をチラッと見た時の、感激とも失望ともつかない妙な気持ち。しかしながら、そのカワウソですら、今や絶滅の危機にある昨今なのである。嗚呼!

徳山の動物園へ、タマンジュア(コアリクイ)を見に出かけた。今でこそ、山陽新幹線もできて便利になったが、当時は大変な道中。女流動物写真家で有名なT女史に、無理矢理せがんでのお供であった。この動物園は地方でも異色で、日本初渡来の動物が意外と多い所で知られている。少なくとも当時は、ここにしか居なかったシロラクダに乗る機会を持った。そもそもラクダの背には、動物園へ行けば乗せてもらっていた。いや、もう少し補足説明を加えるならば、人目を避けて、サク越えて、無免許運転さ

せてもらっていた訳である。しかしながら、この時ばかりは堂々と特別許可の下に、乗せてもらったのである。なんとも言えぬ乗りごこち。そのまま我が家まで帰ろうとも考えたが、かなわぬ相談。これに比べて、今までのラクダの乗り具合の悪さはどうしたものか!? ふと冷静に考えてみると、ナルホド理由は簡単!!シロラクダのコブは2ツで、その間がまるでソファみたい。ところが、それまでに乗ったラクダは全て、ヒトコブだったんですネ。やはり、ラクダ乗るならフタコブの方がラクだ。

思いつくまま、気の向くまま、動物達との関わりを幾つか紹介した。とても話の全てをここには書きつくせない。いずれにしても、私が動物に興味を持ったのは、自分でもハッキリしない程、小さな時からである。興味を持つ以前に私の身の周りには、犬猫を初め、当時ですら町中では珍しくアヒルやニワトリ等も飼っていた。そんな環境にあったから、当然と言えば言えるかも知れないが、動物達との付き合いはそれ以来となるのである。従って、動物園の園長になる将来を信じて疑わざるはずであった。がしかし、運命のコンピューターはどこで回路を狂わしたのか、園長の席はおろか、動物園からもハジキ出してしまったのである。

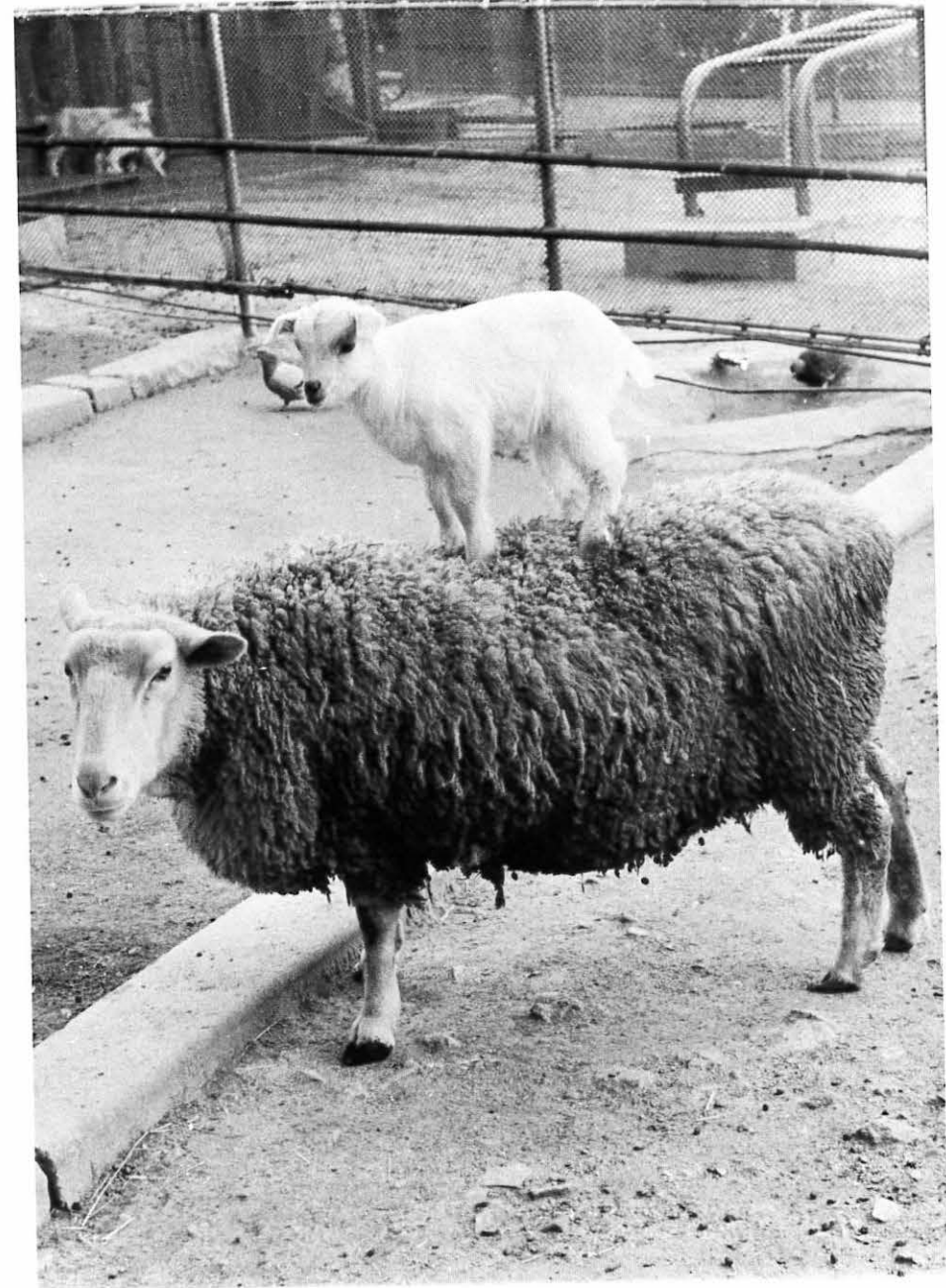
飼育実習でコビトカバの世話をしたこと、初の人工哺育で話題となったチンプとチューしたこと、乳ガンさえも克服した秋田犬との15年に渡る出逢いと別れ、エトセトラ。いろんな動物達との、アセとニオイの勲章がイッパイたまった。これらを胸の奥にしまって、これからも動物達にアプローチしていきたいと思っている。動物園の内から接していく喜びは味わえないけれど、動物園から一步出た外の世界よりイラストや写真を通して、彼らとのコミュニケーションを深めるつもりである。動物狂による、理想的な動物郷造りをめざして、せつせと動物情報を集めている最近でもある。(アート・クリエイター)



表紙の写真説明

“マゼランペンギン”

一見フンボルトペンギンに似ていますが、のどに黒い線があるのが特徴です。南アメリカ南部の島々で繁殖しています。



“メンヨウの背中にヤギがのって!!”

昨年11月28日に生まれたトカラヤギのカラちゃんは大変な寒がり。それでメンヨウのおばさんの背中をちょっと借りて純毛のザブトンに!

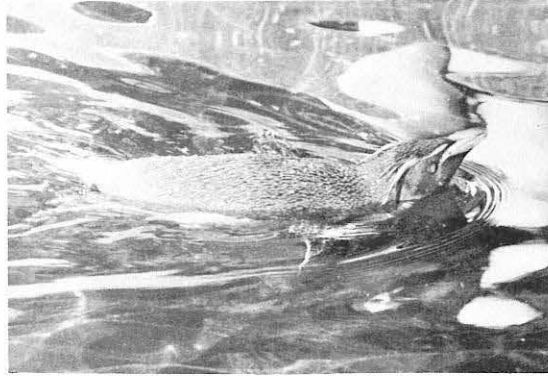
今年は暖い冬がおくれそうぞ!!

なきごえ2月号もくじ	
動物と私	2
メンヨウの背中にヤギがのって!!	3
動物園グラフ	4・5
韓国産狼の現況(1)	6・7
天王寺のどうぶつたち(10)	8・9
獣医室から⑥	10
動物園ニュース	11

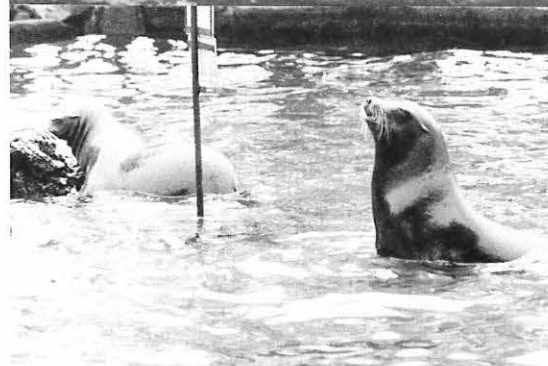
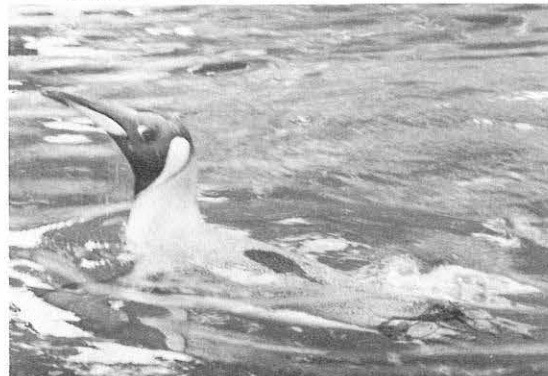
動物園グラフ

“寒中水泳”

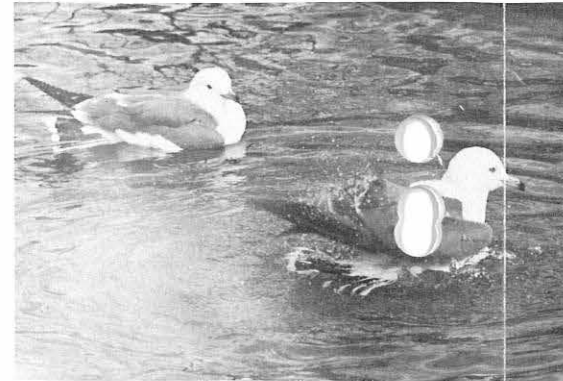
きびしい寒波のおとずれで人間はもちろん、動物達も身をちぢませがちですが、こんな寒さ位平気とばかりに寒中水泳をする動物も居ます。



↑イワトビペンギン) 寒いのは大好き!
↓キングペンギン



←ア
シ
カ
水の中っていいな!



↑ウミネコ 体をきれいに洗わなくちゃ!



↑ニホンアマガモ 冬になると一段と美しく



↑ホッキョクグマ フゥー! いいお水だな!

↓ヒグマ 冬の行水もいいもんだ。



12・1月の動物園日記

12/21. ジャッカルの子が死亡しました。

29. インドマングースが肝硬変で死亡しました。

30. オオバタンが隣のゴバタンにかまれて足から出血していたため止血消毒しました。

1/1. 今年から元旦は休園日になりました。

クロオオカミとキリンがそれぞれ交尾しました。

2. ハイイロカンガルーが交尾しました。

ハッカク1羽の寄付がありました。

3. シュバシコウが左の翼を骨折したため、思いきって断翼しました。

5. コヨーテのメスが発情しているため、夜間もオス

と一緒に放飼することになりました。

7. ミアカットが肺炎を起こして死亡しました。

マレーグマが交尾しました。

12. 翼が骨折したシラサギが1羽保護されて来ました。

13. フタコブラクダが流産しました。

14. ホッキョクグマが回虫をわかせているため駆虫し

てやりました。

15. ライオンの出産が近いため、きょうから寝室に収容することになりました。

16. キュウカンチョウ1羽の寄付がありました。

19. コヨーテが交尾しました。

キソウマが23才という老令にかたず死亡しました。

韓国産狼の現況(1)

昔から朝鮮半島のほぼ全域にわたって棲息していた朝鮮狼は、現在韓国に於てはきわめて少数となり、貴重な動物のひとつとなっている。

もっとも、奥の深い朝鮮北部にはなお相当数が棲息していると思われるが、しかしこれはあくまで推測で、現在ははっきりしたことは不明である。

韓国の狼は太白山系が主なる棲息地らしく、現在日韓の各地動物園で飼育されているものは慶尚北道榮州附近の山中で、十一年程前から捕獲されたものが漸次ふえたものである。

榮州は近くに太白山、高氏洞窟などがある山に囲まれた町である。

最近、韓国の南端に近い智異山にも狼が棲んでいるという確実な情報が入ったが、こゝには見事な大型の豹も棲んでいて、こゝで捕獲された豹が昌慶苑で飼育されている。

この智異山は標高1915米、太白山系のどんぶりまりで、北方から南下した野獣がかなりこゝに棲み



1974. 1. 昌慶苑にて 黒ヌクテ 手前が雄



1974. 6. 黒ヌクテ (雄)

ついているらしい。

朝鮮狼は中型で、やゝ黄褐色に狐色がかっている感じで、まれには黒毛もある。黒毛のものは冬毛は黒茶が濃く、夏は赤紫色のまじったような感じの毛色となる。

朝鮮では昔から狼をヌクテと呼んでいる。発音はむしろ「ヌクテー」で、ノクは魂、テーは群、即ち魂の群、気味の悪い連中とでも解すべきであろうか。

また、きくところによると、ヌクテというのは大体地方言葉で、ソウルでは昔は「イリ」といって、また別にスーン(グ)ネーとも称したという。

イリとは群がる、とか、群をなすという意味で、スーンは高い、ネーは峰、つまり高い峰にいる野獣ということであろうか。

朝鮮名ではランギ(Lang)というが、ホーランギ(Ho Lang)、^{ホーランギ}「虎狼」といえば単に虎だけをいうのである。

また、単にヌクテといっても、かつて中国東北部

(旧満州)や朝鮮北部に出没していた満州狼や赤狼(ドール)などもふくめて総称したようである。

しかし、これらの呼称についてはかなり曖昧でもあるので、さらに韓語にくわしい方のご教示が得られれば幸である。

韓国でも狼は嫌われ者、憎れ者の代名詞になっているが、一方に於ては昔ばなしや民話にも数多く登場するなじみ深い動物である。

朝鮮狼の特徴、生態などについては昭和の初め頃に平岩米吉氏が6頭自宅に飼育され、「動物文学」その他にくわしく紹介されている。

昔は狼による家畜などの被害が絶えず、ことに9月になると農村には豆畑がしげるのでこれにかくれながら巧みに襲ってきたりした。そのため多額の賞金をかけて大々的に捕殺し、また山野の開発、南北動乱の影響などもあってその数は急速に減少した。

1945年韓国解放後、韓国の動物園に1頭も飼育されていないという状況となってしまった。



1974. 6. 昌慶苑にて ヌクテの仔



1975. 5. 昌慶苑 ヌクテ

韓国に韓国特有の狼が飼育されていないということを残念がっていた動物園関係者は、なんとか入手した

もののだと、新聞広告や全国の狩猟家、動物蒐集家などに連絡手配したりしたが、なかなか好結果が得られなかった。ところが1959年5月20日、榮州在住のある人から4頭の狼の仔を飼育しているという連絡があり、動物園では色めき立った。

昌慶苑ではこの狼の仔4頭を早速引き取って飼育展示した。

現在のソウル昌慶苑動物園飼育第二(哺乳類)課長金正万氏によると、実は当時は真正の狼を知るものがなかったために、この4頭を狼として展示はしたものの、田舎から来た朝鮮狼をよく知っている観客から、これはヌクテではないと指摘され、次第に世間からも批難が集中するようになったということである。

(続)

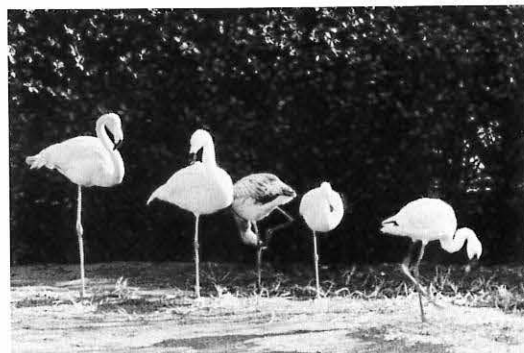
天王寺のどうぶつたち (10)

フラミンゴ①

最近、テレビでよく世界各地の野生動物の映画が放送しています。中でも特にアフリカの動物の映画が多いようです。その中で広い湖に何万と群がる、うすいピンク色をしてツルのような姿をした鳥を見たことはありませんか。あの鳥が今月お話しするフラミンゴです。

現在、世界に6種のフラミンゴがいるのですが、そのどれもが白やピンク色をしてとても美しい鳥です。この「フラミンゴ」という名もイタリア語の華々しいという意味の言葉からできたそうです。そのせいか、天王寺動物園にカメラを持って来る人々のほとんどがこのフラミンゴ池の前で記念写真をとっていらっしゃるようです。

世界中に住む6種のフラミンゴのうち4種が天王寺にいます。ヨーロッパフラミンゴが3羽、キューバフラミンゴが27羽、チリーフラミンゴ7羽、レッサーフラミンゴ2羽。合計39羽います。



ツルのように片足をあげて休むフラミンゴ達。左からキューバフラミンゴ、ヨーロッパフラミンゴ、キューバフラミンゴのひな、チリーフラミンゴ、レッサーフラミンゴ

ヨーロッパフラミンゴは南アフリカ、西シベリア、北西部インド、フランス南部など広い地域にわたって住むフラミンゴで体全体が上品なピンク色がかった白色をしています。

キューバフラミンゴはヨーロッパフラミンゴと並んで最っとも大きな種で首をのぼすと140cm位もあります。これはアメリカ大陸熱帯部の大西洋岸に分布し体の色はあざやかなこいピンク色をしています。

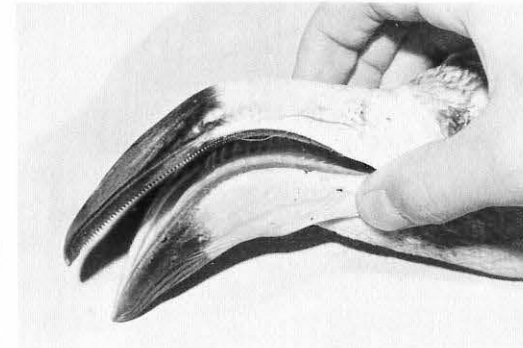
チリーフラミンゴはヨーロッパフラミンゴやキューバフラミンゴより少し小さく、色はヨーロッパフラミンゴに似ていますが、ヒトで言うとカカトにあたる、足の真ん中あたりにある関節がきれいなピンク色をしていて、南アメリカの温帯地方に住んでいます。

レッサーフラミンゴは一番小さくて背の高さが1m位しかありません。だからヨーロッパフラミンゴと並んでいるのを見るとまるで親子のような感じがです。このフラミンゴがよくテレビで見られるもので、アフリカの東部、西部、それにマダガスカルやインドの北西部にも住んでいます。

この4種の他に世界にはアンデスフラミンゴとジェームズフラミンゴがいます。どちらも南アメリカのアンデス山脈のあたりに住んでいます。ジェームズフラミンゴでは高さ3600mのところで見つけられたものもいるそうです。

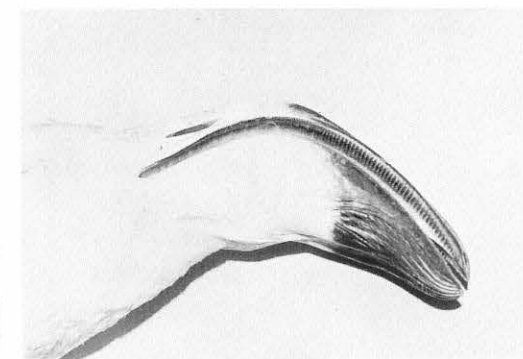
フラミンゴはこのように世界のさまざま温度も気候もまるでちがう地方に住んでいる鳥なので弱そうな外見に比べて冬の寒さなどにも強く鳥の中では割合とじょうぶな鳥のようです。日本の各地の動物園で飼育されはじめたころは胃に寄生する胃虫という寄生虫や、肺などに生えるアスペルギルスというカビのために死んだり、また足のうらにタコのようなものができる病気におかされたりしましたが、飼育係の方々や、獣医さん達の努力や研究によって最近はあまり死ななくなりました。でもあの長くてスラリとした足を時々折ってしまったりするようです。

フラミンゴはとても大きな群を作って生活する鳥で、フラミンゴが非常にたくさんいることで有名なケニアのナクル湖という湖には実に300万羽も群れているそうです。



キューバフラミンゴのクチバシ。上クチバシが下クチバシのフタのようになっています。

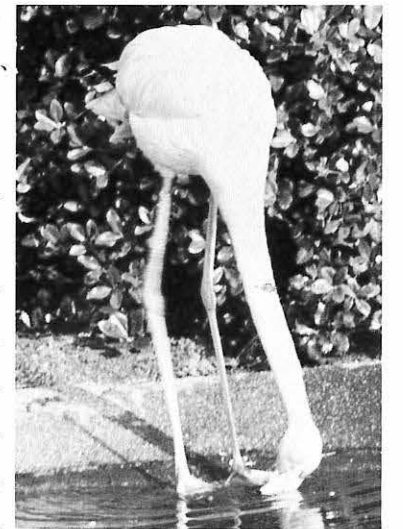
人の目を引くあざやかな羽の色とともにフラミンゴのもう一つの大きな特長は大変妙な形をしたクチバシです。頭に比べて少し大き目で、奇妙に下に曲がっています。下クチバシが大きくて、これは箱の



上クチバシと下クチバシのふちのギザギザに注目してください。

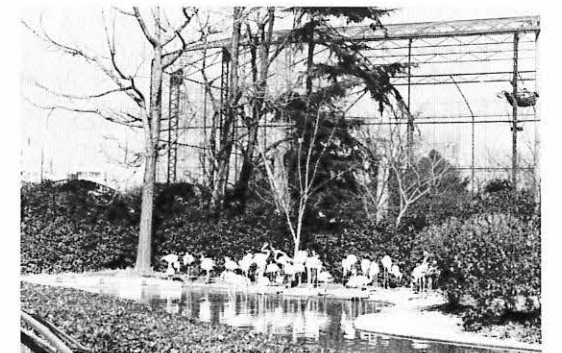
ようなかっこうをしています。上クチバシは小さくて、まるで下クチバシのフタのような感じです。上下のクチバシのふちはギザギザしたみぞになっていて、上クチバシと下クチバシのギザギザがうまくかみ合うようになっています。エサを食べる時は頭をさかさまにして上クチバシを下にします。こうして

クチバシを水の表面につけ、素早く振動させて水面をなぞるように首を左右にふります。クチバシを振動させている時、舌も口の中で素早く前後に動かし、クチバシの中へ入っ



足をバタバタさせながらクチバシをピチャピチャといそがしいフラミンゴの食事。

てくる水を出したり入れたりします。この時に上下のクチバシのふちのギザギザがフィルターの役目をして水の中のプランクトンや小魚をこしとって食べるのです。こうやって食べている間に時々バタバタと足ぶみをします。これは水の底にいる小さな魚や虫を追い出すためのようです。39羽ものフラミンゴがこうやって一せいに食事をはじめる風景はバタバタ、ピチャピチャとそれはにぎやかです。(つづく)



池の前で日なたぼこのフラミンゴ達。後のケージはシュバシコウのいる水ぎん放養舎です。

(飼育課 長 瀬 健二郎)

獣医室から ⑥

きびしい寒さの訪れと共に動物達も体調をくわ
せがちです。特に熱帯、亜熱帯産の動物は、日本の
冬を暖房なしで過ごすことはなかなかむずかしいよ
うです。今回は動物の冬の健康管理についてのべて
みましょう。

まず日本産の動物ですが、ヒグマ、ニホンツキノ
ワグマ、ニホンシカ、エゾシカ、イノシシ、キツネ、
タヌキ、アナグマ、ニホンザルなどは冬でも暖房な
く過ごせますし、ホッキョクグマやペンギン、ガン
カモ類なども、これ位の寒さなど全く平気で反対に
大歓迎といったところ。又、インドゾウやアフ
リカ産のカモシカ類も今では日本の冬に慣れて、暖
房は不要です。

一番早く暖房を入れるのはハ虫舎で、気温に
応じて体温も変化するハ虫類は寒くなると動きも鈍
くなり食欲も減退するため、例年10月1日からスチ
ーム暖房を入れ始めます。次に寒さに弱いのがイン
コ、小鳥類で、11月頃から徐々にスチーム暖房を
開始します。インコや小鳥類ではちょっとした気
温の低下でも病気になるやすく、カゼや下痢など
を起こします。昨年11、12月頃にインコ類やフ
インチ類などでカゼが発生したため、飲水に薬を
まぜたり注射などで治療につとめました。スチ
ーム暖房というのは園内にあるボイラー室で重油
をもやし、その熱で熱い水蒸気を各動物舎に送
りこむものです。従って10月1日から翌年5月
15日まではボイラーも24時間操業を行うわけ
で、

現在7人の係員によって日夜運転されていま
す。このボイラー室からスチームを送っている
動物舎は上のべたハ虫舎、小鳥舎以外に、カ
バ舎、類人猿舎、ゴリラ舎、一次収容室など
で、各動物舎の温度は表のように一定に保
つ



①暖房中のカバ舎

動物舎	温度
ハ虫舎 (大型ヘビ)	25~30°C
ハ虫舎 (小型ヘビ)	25~30°C
ハ虫舎 (ゾウガメ室)	25~30°C
ハ虫舎 (ワニ)	22~25°C
小鳥舎	14~18°C
カバ舎	14~17°C
ゴリラ舎	18~22°C
類人猿舎	18~22°C
一次収容室	20~28°C

房ですし、サル類やバク、ライオンなどは赤外線
ランプで保温しています。又、オオアライクイやビ
ントロング、ワラビーなどは床にパネルヒーターを
おいて暖房しています。



②パネルヒーターの上のビントロング

これらの暖房設備以外には、寝室にワラを厚く敷
きつめたりしてできるだけ快適に過ごせるように
してあります。

冬期に起きやすい病気としては先ほどのべたカ
ゼや下痢が一番多いようです。又、尾の長いオナガ
ザルの仲間などでは尾の先がしもやけや凍傷にか
かりやすく、ひどい時には尾が半分ほどくさ
って取れてしまう時もあります。しかし動物園
生まれの動物や日本で長年生きてきた動物は
かなり日本の寒さにも慣れてきており、雪の
降る中でもキリンやサイやカバなどが平気で
動き回っている場合があります。動物の環境
への適応性には驚くばかりです。

(飼育課 宮下 実)

ています。これら以外で暖房の必要な動物舎には電気による暖房、保温を行っています。例えばキリンやクロサイなどは電気温風器による暖

夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします



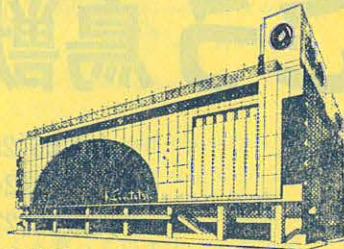
上本町近鉄 TEL. (06) 779-1231



アベノ近鉄 TEL. (06) 624-1111



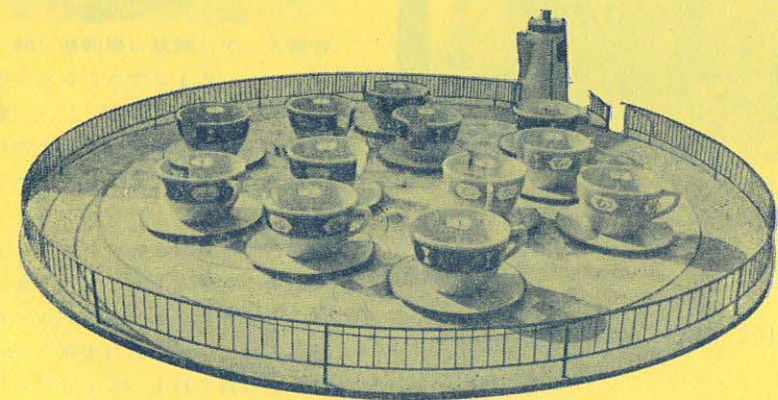
奈良近鉄 TEL. (0742) 33-1111



東京近鉄



遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娛樂株式会社

本社 工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

世界の猫、小鳥と愛玩動物専門店

はく製製造卸・直輸入動物取扱い店
各国、犬種・シャム猫・ペルシヤ猫

大阪市南区心斎橋1丁目38

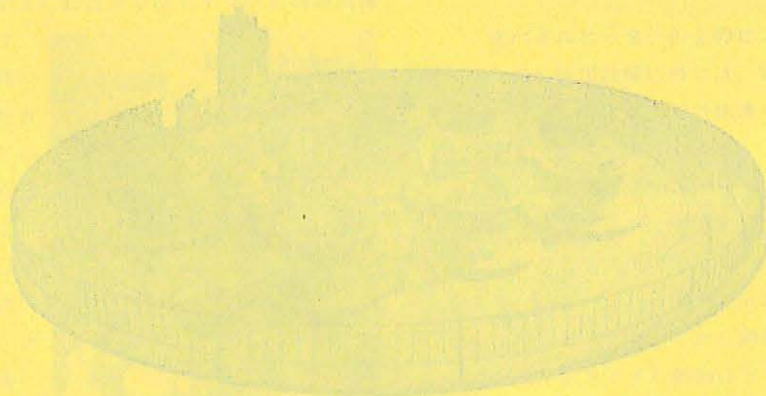
⊗ そごう 鳥獣部

そごう百貨店屋上 直通TEL

大阪06(252)5497
(241)9146
大阪06(271)2221
内線 2554



表頭・科製・営務請受請就園遊



株式会社 動物園

大阪府大阪市南区心斎橋1丁目38番地
電話 06-252-5497

動物園ニュース

☆ピューマ入園

昨年12月16日、ピューマのオスが1頭入園しました。これは昨年4月に当園に居たオスが死亡してしまつたため新しく入れたもので、毛並みも良く体格



も堂々とした立派なオスです。前から居る2頭のメスと現在見合い中で、まもなく

同居させることができるでしょう。

☆順調に育つライオンとクロザルの赤ちゃん!

昨年12月19日に生まれたエチオピアライオンの赤ちゃん2頭とカンムリクロザルの赤ちゃん1頭は、寒さにもめげずすくすくと育っています。エチオピアライオンはこれが5度目のお産、クロザルは3度目のお産と、共に育児のベテランらしくうまく哺育していま

す。エチオピアライオンの赤ちゃんはまだ寝室で母親と一緒に



ですが、2月末頃には父親と一緒に運動場に放飼して、入園者の方々にもお目見得できることでしょう。

☆出産を待つ動物達

新年を迎えた元旦の日、クロオオカミとキリンがそれぞれ交尾しました。クロオオカミは1月4日まで交尾が認められ、うまくいけば3月初旬に二世が誕生することでしょう。キリンの方は来年3月頃に出産の期待が持たれます。又、昨年末から今年初めにかけてハイロカンガルーとアカカンガルーにも交尾が認められており、春先には袋の中に居る赤ちゃんが確認できることでしょう。1月7日にはマレーグマが交尾しており、これも赤ちゃん誕生の可能性がありそうです。その他コヨーテ、チョウセンオオカミ、シンリンオオカミらも発情を前にしており、春は出産ラッシュになりそうです。

☆園内に野鳥が来ています

今年は例年になく多くの野鳥が園内に姿を見せています。主なものとしてはウソ、シメ、センダイム



シクイ、ウグイス、カシラダカ、ムクドリ、ヒヨドリ、メジロ、キセキレイ、ハクセキレイ、モズ、コジュケイ、キジバト、カルガモなどです。このように多くの野鳥が飛来するのは園内の樹木が多くなったのも一つでしょうが、自然が戻ってくるのは喜ばしい限りです。

☆春を待つ鳥類

3月に入るとシュバシコウが巣作りを始め、産卵抱卵へと続きますが、それに先立ちシュバシコウのために巣材の収集をしています。例年通り、市内の公園で伐採した柳の小枝をもらい受けて来て巣材用の大きさに切りそろえています。2月末頃には巣に



運び上げて巣作りの下準備をする予定です。その他キジ類も3月末頃から産卵を始めますので、ふ卵器の整備もそろそろ予定しています。

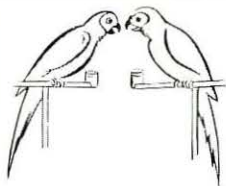
◎ お知らせ

毎月第三月曜日は休園日です。2月は16日が休園日になります。

◎ 動物相談

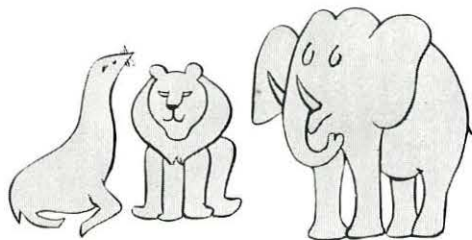
動物の飼育、病気の治療、生態、習性など動物全般に関する相談は平日の3時～4時に電話 771-8402で受付ています。お気軽に御相談下さい。

なきごえ 昭和51年2月15日発行 (毎月1回15日発行) 第12巻第2号(通巻126号)
 〒543 大阪市天王寺区玉水町2
 編集/大阪市天王寺動物園 電話 大阪 (06)771-0201
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 振替口座 大阪 37823
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517
 飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130c.c.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 < 小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗 >
 深井 和美・東 政宏・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・農本 武志 >